

※本設計におけるパース図については、基本設計におけるイメージであり、実施設計で変更する場合があります。



静岡市清水斎場建設工事基本設計

平成26年3月
静岡市 生活文化局 市民生活部
区政課 新斎場建設室

1. 基本方針

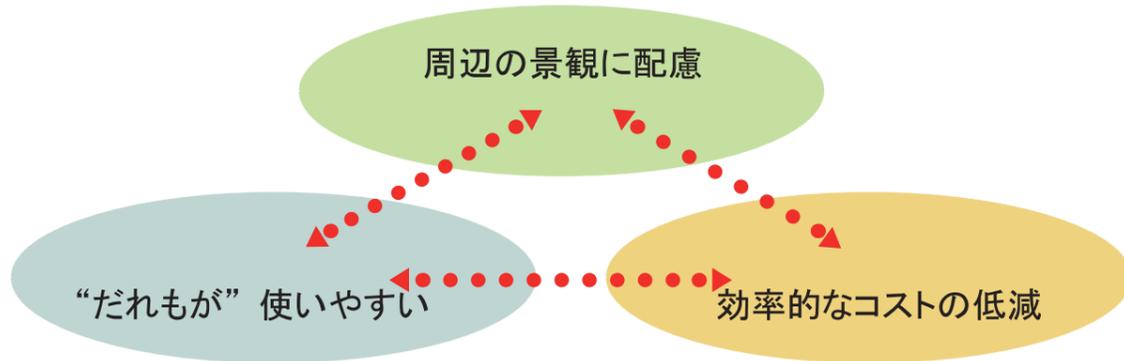
1- (1) はじめに

わが国における火葬率がほぼ100%に達し、火葬場（斎場）は市民生活に欠かすことのできない都市施設となっています。

近年の火葬場（斎場）は、火葬炉の無公害化や周辺環境との調和等により、従来のイメージを払拭した都市施設に生まれ変わっています。

建築計画においても、会葬者の心情に配慮した包容力のある空間構成を備えた、明るく清潔で、周辺環境に調和した現代的な都市施設として刷新されています。

本計画は、増加傾向にある火葬需要に備えるとともに、老朽化の進む既存の清水斎場を、厳粛性と効率性を備え、遺族と会葬者の心情に配慮した火葬場（斎場）に整備するための建設基本設計です。



1- (2) 基本方針

「周辺の景観に配慮」「だれもが」使いやすい」「効率的なコストの低減」の3点を重要な視点と捉え、清水斎場の建設計画における基本的な考え方を設定します。

■ 周辺の景観に配慮

- ・日本平の豊かな緑に溶け込む外観の計画
- ・清水みなと街と富士山への眺望を考慮した配置計画
- ・近隣の住宅や田畑に威圧感を与えない配置計画

■ “だれもが” 使いやすい

- ・厳かさの中にも遺族と会葬者にゆとりを生む葬送空間の計画
- ・遺族と会葬者のプライバシーを守る配慮
- ・安心・安全でわかりやすい施設構成（ユニバーサルデザイン）
- ・運営管理に柔軟に対応するフレキシブル性

■ 効率的なコストの低減

- ・施設規模のスケールダウンの徹底。コンパクト化
- ・メンテナンス性の向上、総コストの低減に配慮した計画
- ・環境負荷低減・省エネに配慮した計画



●アイレベルでの建物外観



●敷地南からの建物外観

2. 計画概要

2- (1) 地理的条件



●付近見取図 1/60000

■建設地 : 静岡市清水区北矢部地内 (日本平の北斜面)

■施設の用途 : 火葬場

■敷地の条件

敷地面積 : 約 41,000 m²

用途地域 : 指定なし (市街化調整区域)

防火地域 : 防火指定なし (22条区域)

地域・地区 : 第1種風致地区 (緑化率 50%以上)

日影規制 : 建物平均地盤面より H4m にて 4 時間、2.5 時間

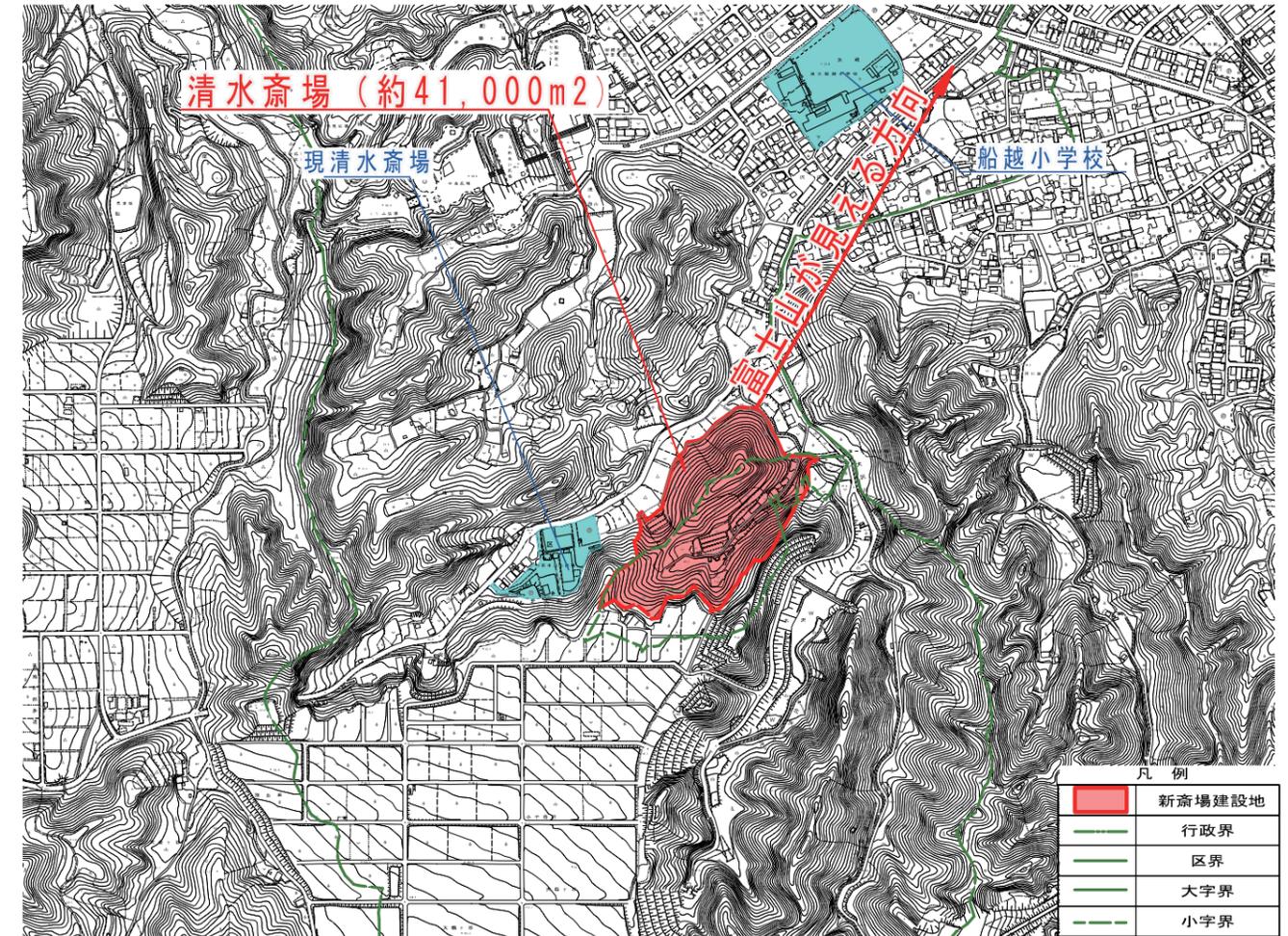
その他 : 都市計画決定済 (都市施設 : 火葬場)



●日本平より望む富士山と清水港

2- (2) 敷地概要

計画敷地は既存の清水斎場の敷地に隣接した、緑豊かな日本平の北斜面、海拔 53 m の高台に位置します。また、敷地からは富士山と清水の市街地を望むことができ、眺望と自然環境に恵まれた立地です。計画敷地は造成工事により、山を切り崩し、その土により谷を埋めて海拔 53 m に整地します。



●位置図 1/9000

3. 配置計画

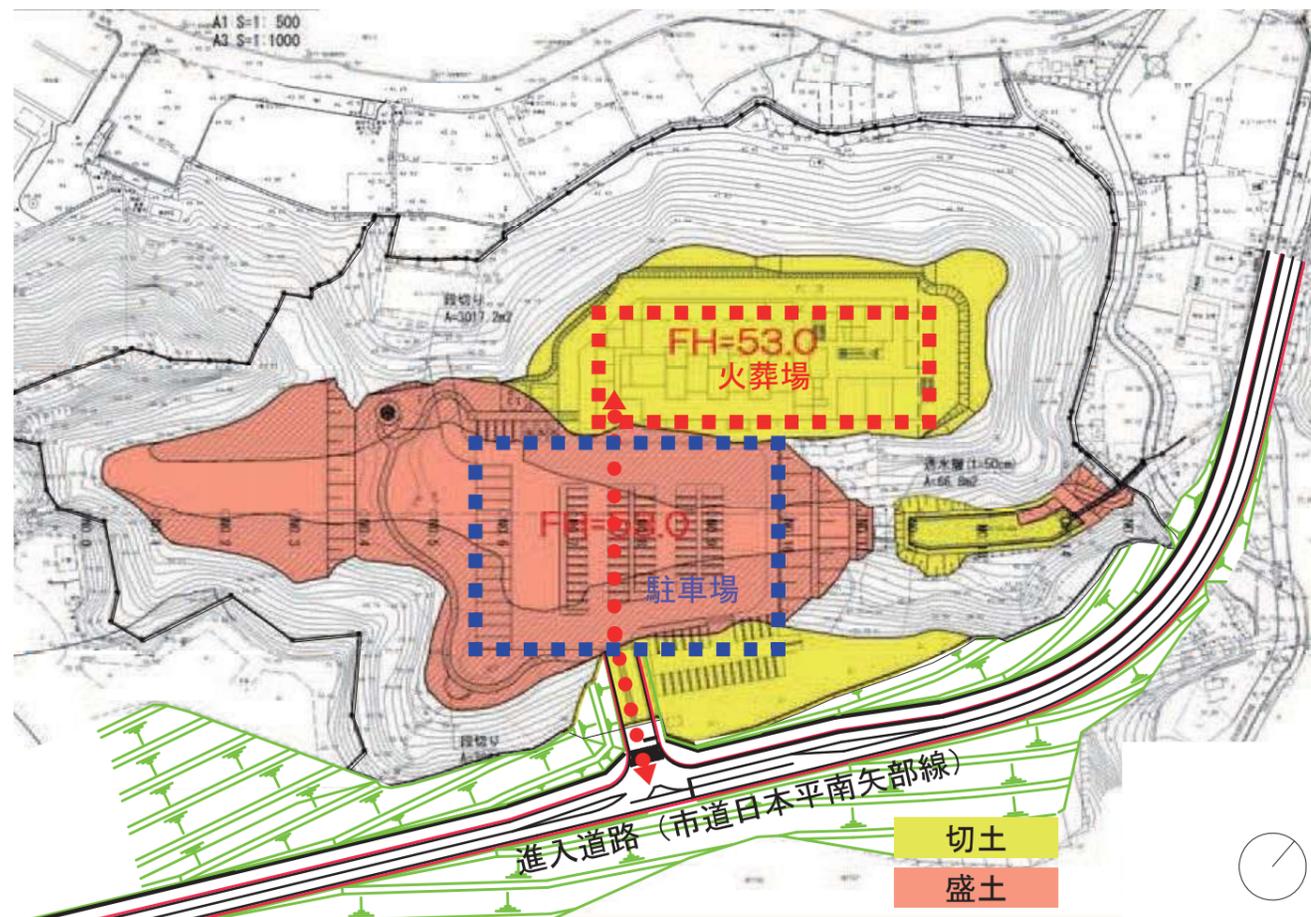
3- (1) 配置計画

計画敷地は、造成工事により切土・盛土によって整地されています。
また、敷地への進入は新たに整備される敷地南東側の道路（市道日本平南矢部線）から行います。

火葬場は会葬者の多くが団体で、バス、または自家用車を利用してアプローチする施設です。したがって、配置計画は、「進入道路→駐車場→火葬場」といったつながりのある土地利用が重要です。

進入道路に隣接した盛土部分に駐車場を配置します。また、地盤が比較的安定し、富士山と清水の市街地を望む最も眺望の良い敷地北西側の切土部分に建物を建設します。施設機能の合理性と建設コストの縮減を両立した配置計画とします。

本設計における会葬者とは、遺族も含むものとします。



敷地造成計画図 1/2000

3- (2) 外部動線計画

外部の動線計画において最も重要なことは、会葬者にとってわかりやすく、安全であることです。本計画では会葬者の動線とサービス関係者の車両動線を明確に分離し、歩車分離により安全を確保した外部動線計画とします。

■会葬者動線（車両） ●●●●●●●●▶

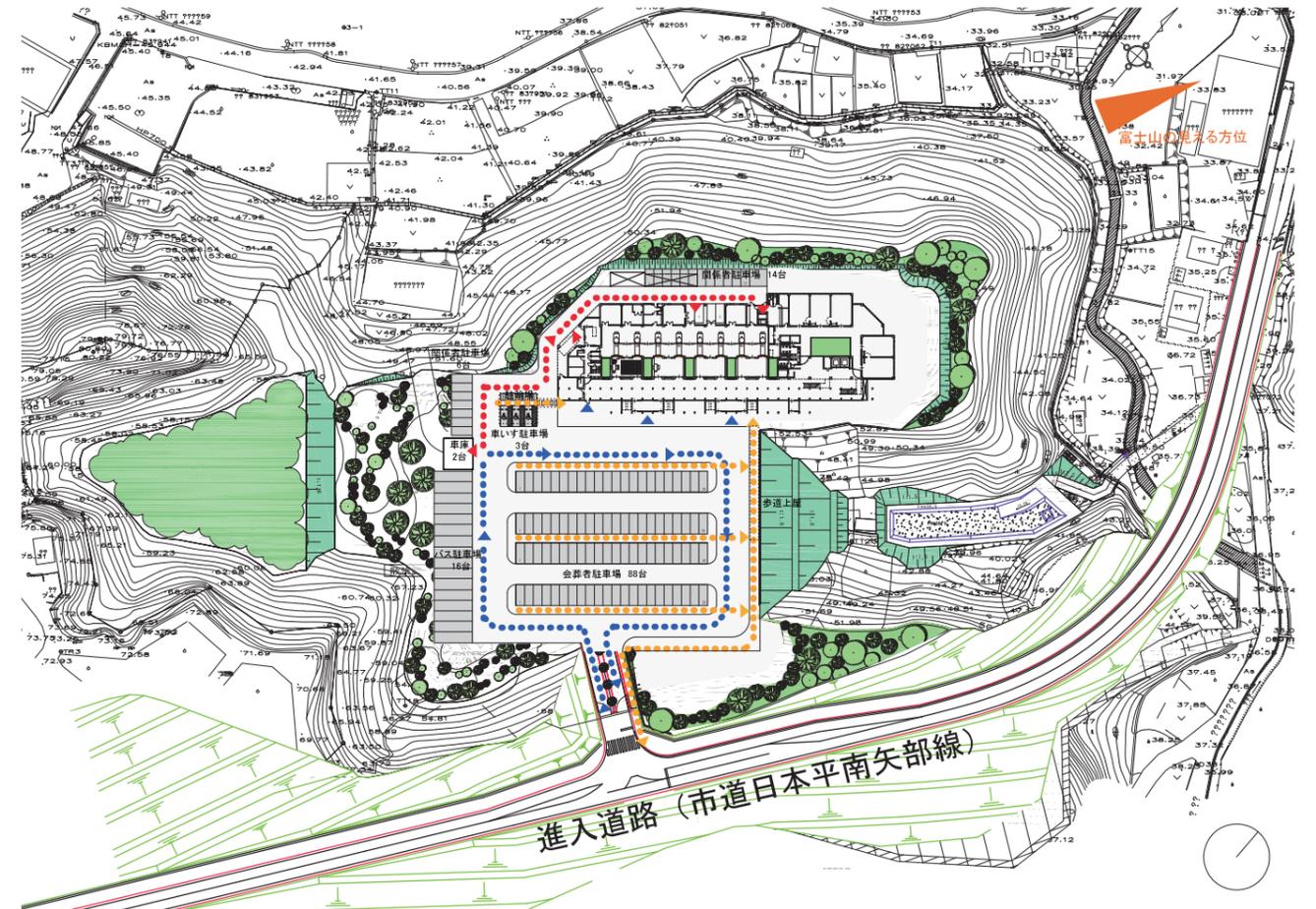
進入道路より時計まわりにて建物にアプローチし乗降、そのまま時計回りで駐車場に至る一方通行道路として計画します。また建物は広く車両動線に面する計画として、霊柩車及びバス等の寄りつきスペースを確保します。

■会葬者動線（歩行者） ●●●●●●●●▶

敷地北東側に歩行者のための歩道を整備します。駐車場内には安全な歩道を整備し、可能な限り歩行者と車両の動線が交わらない計画とします。

■サービス関係者動線 ●●●●●●●●▶

火葬場には職員のみならずお弁当、給茶のサービス、葬祭支援、機器のメンテナンス等のサービス関係者が出入りします。そのメインサービスバックヤードを敷地北西側に集約することにより、会葬者の動線と明確に分離した計画とします。



外部動線計画図 1/2000

4. ゾーニング計画

4- (1) ゾーニング計画

施設内部の主要諸室は基本方針を踏まえて、だれもが使いやすく合理的なゾーニングを行います。

■火葬事務部門

来場する会葬者を視認しやすい位置に事務室を配置します。

隣接するバックヤード側には霊安室を配置します。

■火葬部門

複数の会葬者の来場に対応できるように車寄せに面して幅広く配置します。

隣接するバックヤード側には火葬炉室・関係諸室を配置します。

■待合部門

会葬者の心情に配慮し、眺望の良い北側に配置します。

■待合事務部門

待合部門とバックヤードの交差点に配置します。

4- (2) 内部動線計画

会葬者の主動線は「来場→告別→待合（火葬）→収骨→退場」となります。

この主動線が交わらない、ひと筆書きとなる動線計画を実施します。

特に告別から待合へ向かう会葬者と、待合から収骨へ向かう会葬者が円滑に移動できる計画とします。

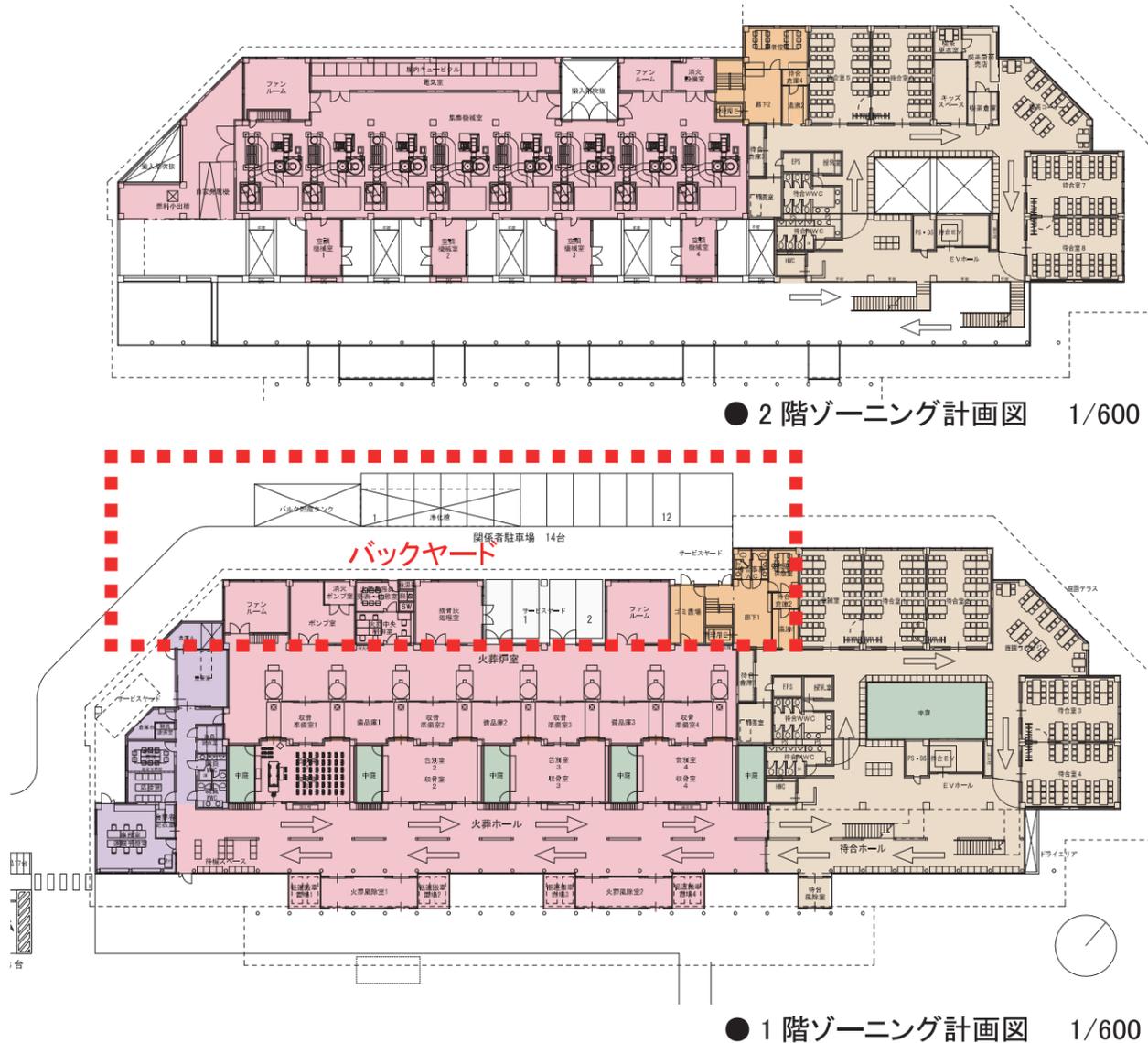
4- (3) バリアフリー計画

会葬者の主動線となる廊下幅は2300mm以上、主要な扉幅は1200mm以上を確保します。また、待合部門は2階建てとなるため、車椅子対応のエレベーター及び各階にトイレ（オストメイト設備付き）、授乳室、静養室を設けます。

4- (4) 避難計画

最大200人程度を収容する2階待合室からの避難は、待合ホール側2か所、バックヤード側1か所の階段、計3ヶ所の階段にて、安全に避難できる計画とします。

また、建物周辺は消防隊の活動に配慮した、植栽計画とします。



4- (5) サイン計画

会葬者案内サインは予約システムと連携したモニター型サインとします。(別途工事)

待合EV・階段付近に視認しやすいフロア案内サインを設置します。また、その他のサインは国際的に運用されているピクトサインを中心に計画します。

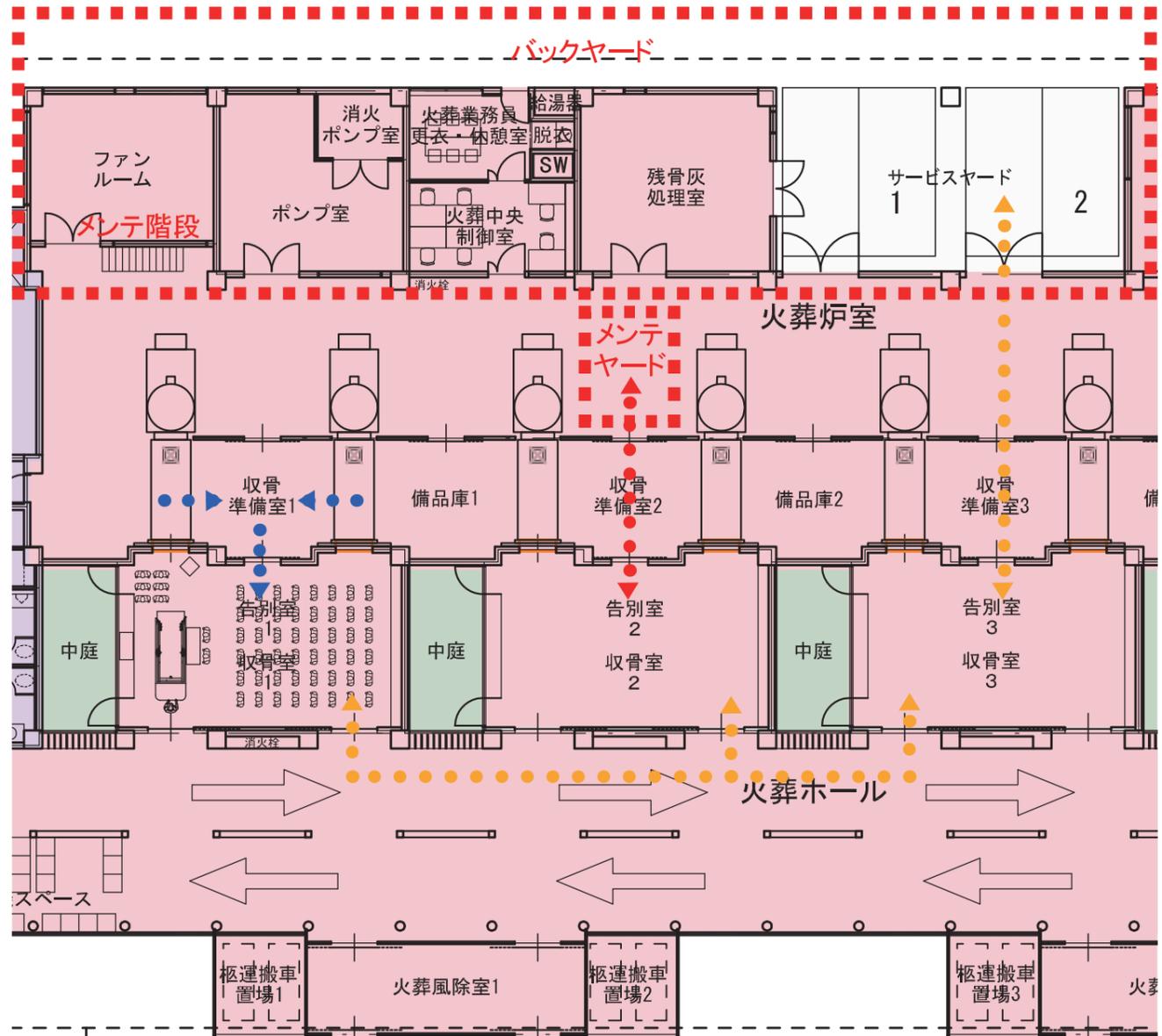
5. 各室計画

5- (1) 火葬炉の計画

火葬炉の炉前室に面して、2炉あたり1室の収骨準備室を設けます。この配置により臭気の発生しやすい炉内台車を告別室に出さない計画とし、儀礼空間の快適性と収骨準備の効率化を図ります。炉内台車のメンテナンスは各収骨準備室の奥で行うことが可能なレイアウトとします。また、施設外でのメンテナンスのための炉内台車搬出ルートをバックヤードまで確保します。

火葬中央制御室、その他機械室をバックヤード側に集約配置し、サービスヤードやメンテナンス専用の駐車場を隣接計画することで、メンテナンス性の向上を図ります。

景観計画により各炉の配置は6mピッチを採用します。



● 火葬炉計画図 1/200

5- (2) 火葬炉の運用スケジュール (参考)

※①2炉1告別 CASE1(同時刻運営) 20件

	8:45	9:00	9:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00	17:30
1号炉	告別 火葬		冷却 収骨 清掃					告別 火葬		冷却 収骨 清掃				告別 火葬		冷却 収骨 清掃			
2号炉			告別 火葬		冷却 収骨 清掃					告別 火葬		冷却 収骨 清掃							
3号炉	告別 火葬		冷却 収骨 清掃					告別 火葬		冷却 収骨 清掃				告別 火葬		冷却 収骨 清掃			
4号炉			告別 火葬		冷却 収骨 清掃					告別 火葬		冷却 収骨 清掃							
5号炉	告別 火葬		冷却 収骨 清掃					告別 火葬		冷却 収骨 清掃				告別 火葬		冷却 収骨 清掃			
6号炉			告別 火葬		冷却 収骨 清掃					告別 火葬		冷却 収骨 清掃							
7号炉	告別 火葬		冷却 収骨 清掃					告別 火葬		冷却 収骨 清掃				告別 火葬		冷却 収骨 清掃			
8号炉			告別 火葬		冷却 収骨 清掃					告別 火葬		冷却 収骨 清掃							

※②2炉1告別 CASE2(告別、収骨、火葬の重なり最少) 20件

	8:45	9:00	9:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00	17:30
1号炉	告別 火葬		冷却 収骨 清掃					告別 火葬		冷却 収骨 清掃				告別 火葬		冷却 収骨 清掃			
2号炉			告別 火葬		冷却 収骨 清掃					告別 火葬		冷却 収骨 清掃							
3号炉	告別 火葬		冷却 収骨 清掃					告別 火葬		冷却 収骨 清掃				告別 火葬		冷却 収骨 清掃			
4号炉			告別 火葬		冷却 収骨 清掃					告別 火葬		冷却 収骨 清掃							
5号炉	告別 火葬		冷却 収骨 清掃					告別 火葬		冷却 収骨 清掃				告別 火葬		冷却 収骨 清掃			
6号炉			告別 火葬		冷却 収骨 清掃					告別 火葬		冷却 収骨 清掃							
7号炉	告別 火葬		冷却 収骨 清掃					告別 火葬		冷却 収骨 清掃				告別 火葬		冷却 収骨 清掃			
8号炉			告別 火葬		冷却 収骨 清掃					告別 火葬		冷却 収骨 清掃							

※③2炉1告別 CASE3(CASE2の日常時) 9件

	8:45	9:00	9:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00	17:30
1号炉	告別 火葬		冷却 収骨 清掃											告別 火葬		冷却 収骨 清掃			
2号炉								告別 火葬		冷却 収骨 清掃									
3号炉			告別 火葬		冷却 収骨 清掃														
4号炉								告別 火葬		冷却 収骨 清掃									
5号炉	告別 火葬		冷却 収骨 清掃																
6号炉								告別 火葬		冷却 収骨 清掃									
7号炉			告別 火葬		冷却 収骨 清掃														
8号炉										告別 火葬		冷却 収骨 清掃							

● 運用スケジュール案

(平成22年度) (6/16からの集計)

人数	件数	割合 (%)	
1~50	1,425	71.1	71.1
51~60	229	11.4	22.8
61~70	149	7.4	
71~80	79	3.9	6.1
81~90	50	2.5	
91~100	31	1.5	
101~	42	2.1	6.1
合計	2,005	100	100

(平成23年度)

人数	件数	割合 (%)	
1~50	1,799	73.6	73.6
51~60	238	9.7	20.7
61~70	164	6.7	
71~80	103	4.2	5.8
81~90	60	2.5	
91~100	31	1.3	
101~	50	2.0	5.8
合計	2,445	100	100

(平成24年度)

人数	件数	割合 (%)	
1~50	1,981	78.5	78.5
51~60	249	9.9	18.0
61~70	128	5.1	
71~80	76	3.0	3.5
81~90	44	1.7	
91~100	18	0.7	
101~	27	1.1	3.5
合計	2,523	100	100

(平成22~24年度合計)

人数	件数	割合 (%)	
1~50	5,205	74.6	74.6
51~60	716	10.3	20.3
61~70	441	6.3	
71~80	258	3.7	5.1
81~90	154	2.2	
91~100	80	1.1	
101~	119	1.7	5.1
合計	6,973	100	100

● 1火葬あたりの会葬者数分布

5- (3) 火葬ホール、告別・収骨室の計画

■火葬ホールの計画

火葬ホールは駐車場に面して広く確保する計画とします。また、風除室から告別室に至る動線を短くし、スムーズな葬送の流れを確保します。

事務室は火葬ホールを視認しやすい配置とし、早く着いた会葬者のための待機スペースを事務室に面して確保します。また、事務室に最も近い告別室は80人を超える会葬者に対応するため、火葬ホールを拡張スペースとして利用可能な計画とします。

「告別→待合」の動線と、「待合→収骨」の動線は火葬ホールの中央に配置した空調用輻射パネルによって緩やかに仕切り分ける計画とします。

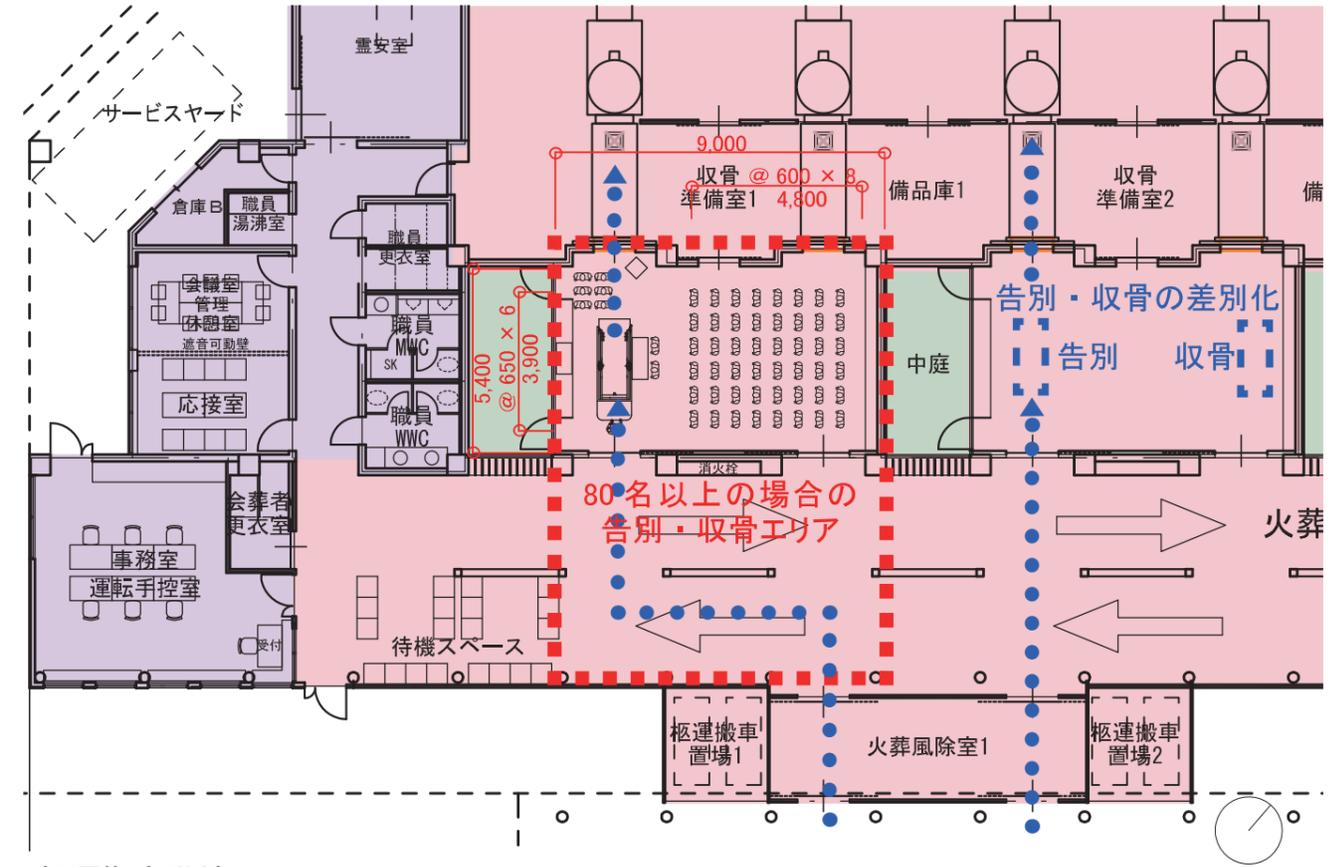
仕上は床：花崗岩、壁：打放し、天井は野地板塗装を基本とし、素材感を生かした自然なイメージとします。

■告別・収骨室の計画

告別と収骨はスペースの効率化と会葬者のわかりやすさに配慮し、同一の部屋にて行います。また、各告別・収骨室に専用の中庭を設けることにより、告別と収骨の各葬送儀礼における変化を演出します。

なお、告別・収骨室は2炉に1室の計4室とし、収容人員は、1火葬あたりの会葬者数分布から、基本を50名としながらも、80名まで対応可能な計画とします。

仕上は床：花崗岩、壁：打放し、天井は塗装を基本とし、素材感を生かした自然なイメージとします。



枢運搬車動線 ●●●●●▶

●火葬ホール、告別・収骨室計画図 1/200



●火葬ホール内観パース



●告別・収骨室内観パース

5- (4) 待合ホール、待合室の計画

■待合ホールの計画

待合ホールは、2階建てとなる待合室に対して2層吹抜けとなる計画とします。縦動線となる階段及び車椅子対応のエレベーターを配置します。「告別→待合」と「待合→収骨」の動線は、上り・下り専用階段と待合ホールの中央に配置した空調用輻射パネルによって分ける計画とします。

仕上は火葬ホールと同様に、床：花崗岩、壁：打放し、天井は野地板塗装を基本とし、素材感を生かした自然なイメージとします。

■待合室の計画

待合室は1火葬あたりの会葬者数分布から収容人員50名とし、1階に4室+待合に利用可能な会議室1室、2階に4室を計画します。2室を1ゾーンとして配置し、連絡扉により最大100名に対応が可能な計画とします。

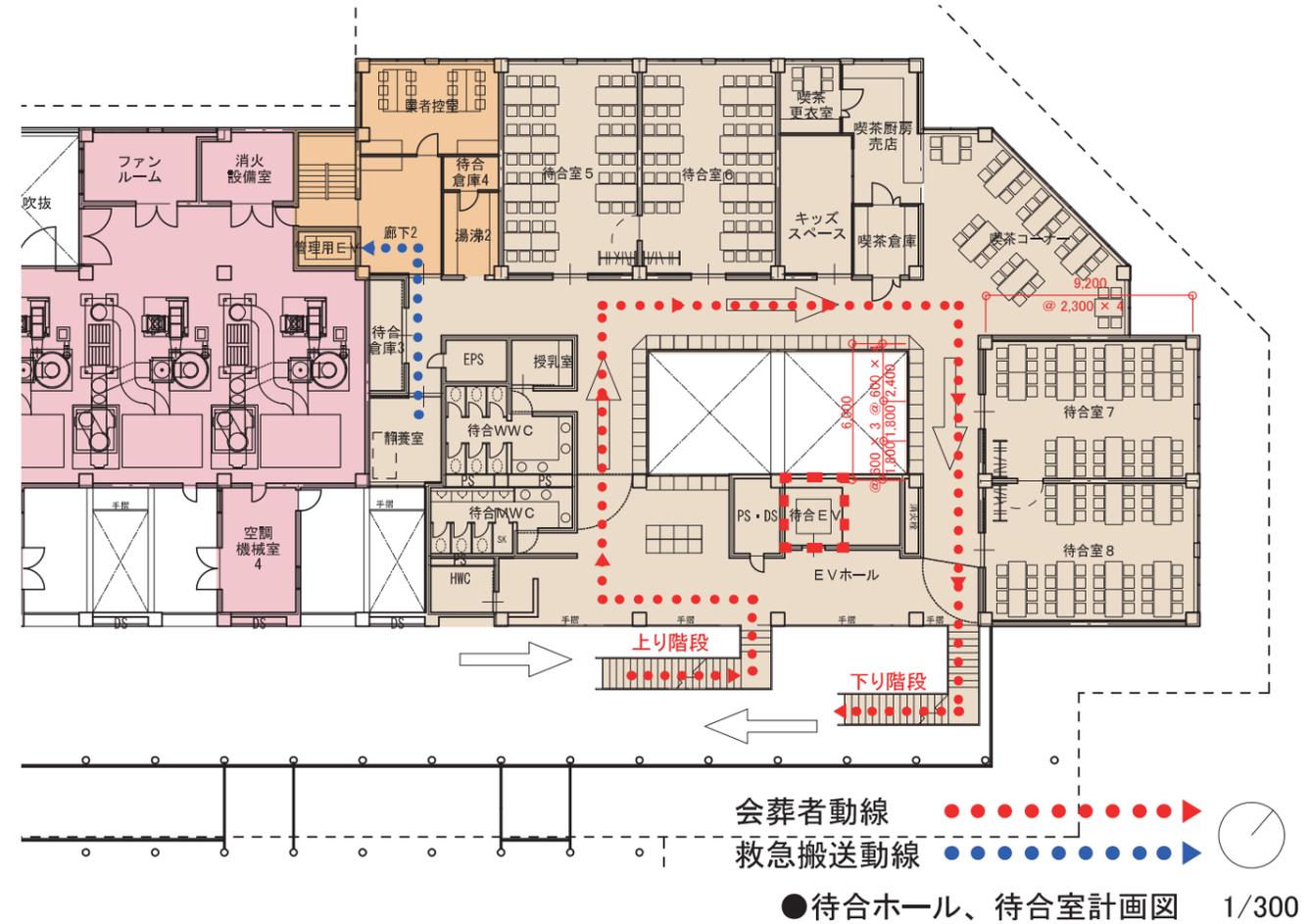
仕上は床：タイルカーペット、壁：和紙調クロス貼り、天井は塗装を基本とし、温かみのある落ち着いたイメージとします。

■待合空間の快適性の向上

待合部門には、待合室の他に要所にベンチを計画し、快適性の向上に努めます。また、待合部門の廊下は中庭を配置し、十分に自然光を取り込んだ明るい空間とします。眺望が最も良い北側角は1階に庭園ラウンジ、2階に喫茶コーナーを配置し快適性の充実を図ります。

その他、各階に静養室を設け、2階から救急搬送が必要な場合には、担架での搬送が可能な管理用エレベーターを利用する計画とします。

EVホール・廊下・ラウンジの仕上は、床：フローリング、壁：打放し、天井は塗装を基本とし、温かなイメージとします。



●待合ホール内観パース



●待合室内観パース

6. 景観計画

6- (1) 外観デザイン計画

外観は、「豊かな日本平の自然景観の継承」をテーマに周辺景観と調和した計画とします。具体的には勾配屋根を使った寄棟形状とし、造成により失われた山並みを再現したシルエットとします。また、色彩についても素材感を生かした計画とします。周辺景観に対してスケール感・色彩共になじむ外観計画とします。

また、軒の高さを抑えることによる建物の圧迫感の低減とともに、建設コストの縮減に努めます。



●アイレベルでの建物外観



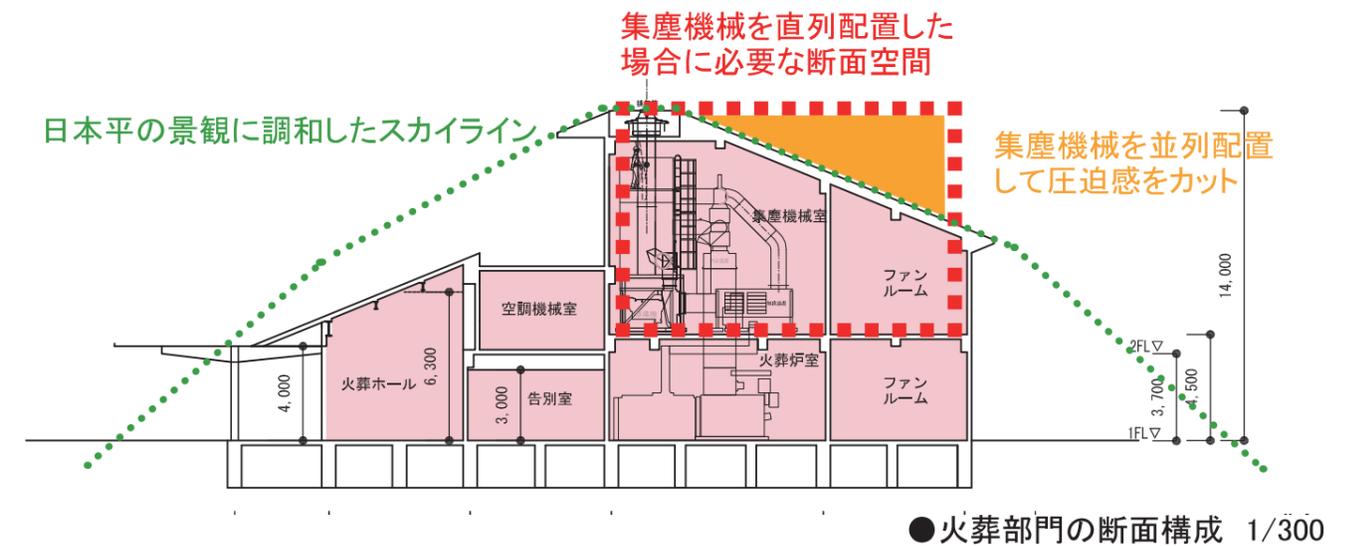
●敷地南からの建物外観

●敷地北からの建物外観

6- (2) 断面計画

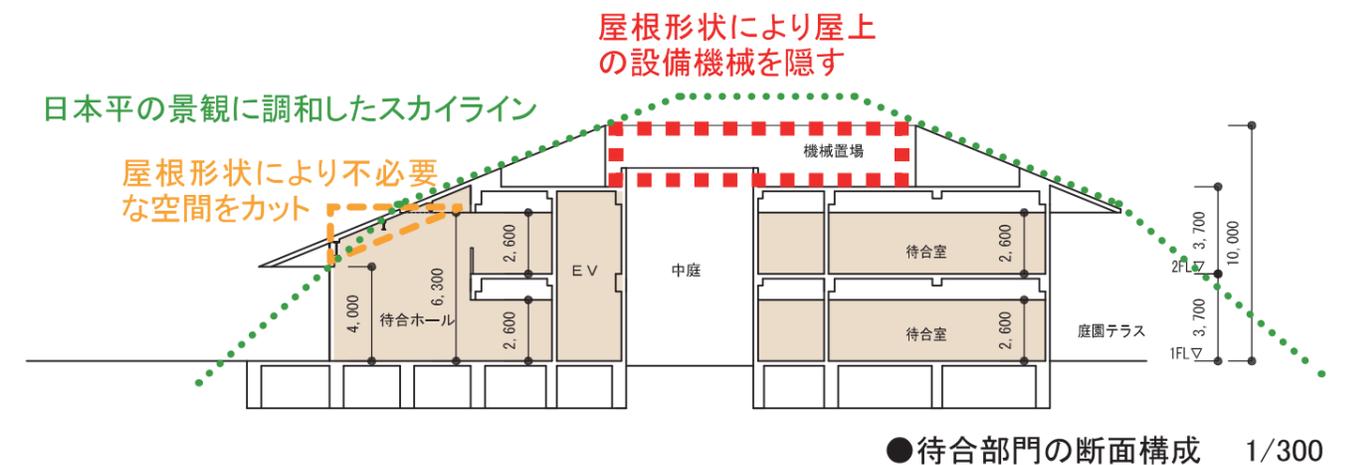
■景観に配慮した集塵機械の断面構成

火葬場の建物ボリュームは集塵機械室のレイアウトに大きな関わりがあります。一般的な集塵機械の直列配置は炉のピッチを3.5m程度に合理化できる反面、高さの必要な炉煙突と集塵フィルター装置が直列に配置されるため、断面構成は14mの壁がそそり立つこととなります。高さの必要な炉煙突と集塵フィルター装置を並列に配置することにより、集塵機械室の壁を大幅にカットし、日本平のスカイラインに調和した断面計画とします。



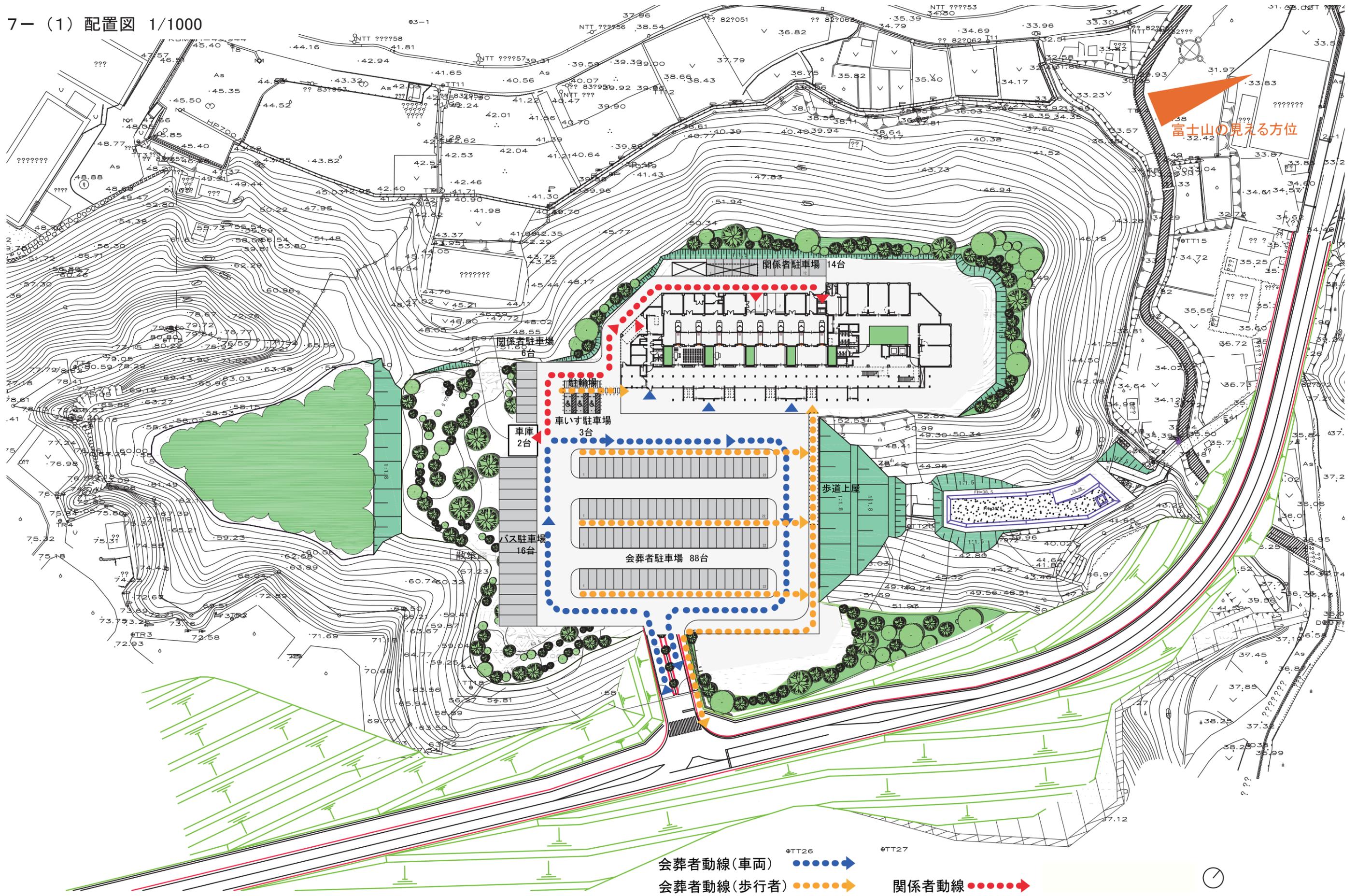
■景観に配慮した待合部門の断面構成

待合部門にも、集塵機械室の屋根と連続する勾配屋根を採用し、屋上の設備機械を隠す計画とします。また、待合ホール・火葬ホールにも連続した勾配屋根を採用することにより、2層吹抜けの十分な天井高さを確保します。屋根形状により不必要な空間をカットし、日本平のスカイラインに調和させるとともに、建設コストの縮減に努めます。

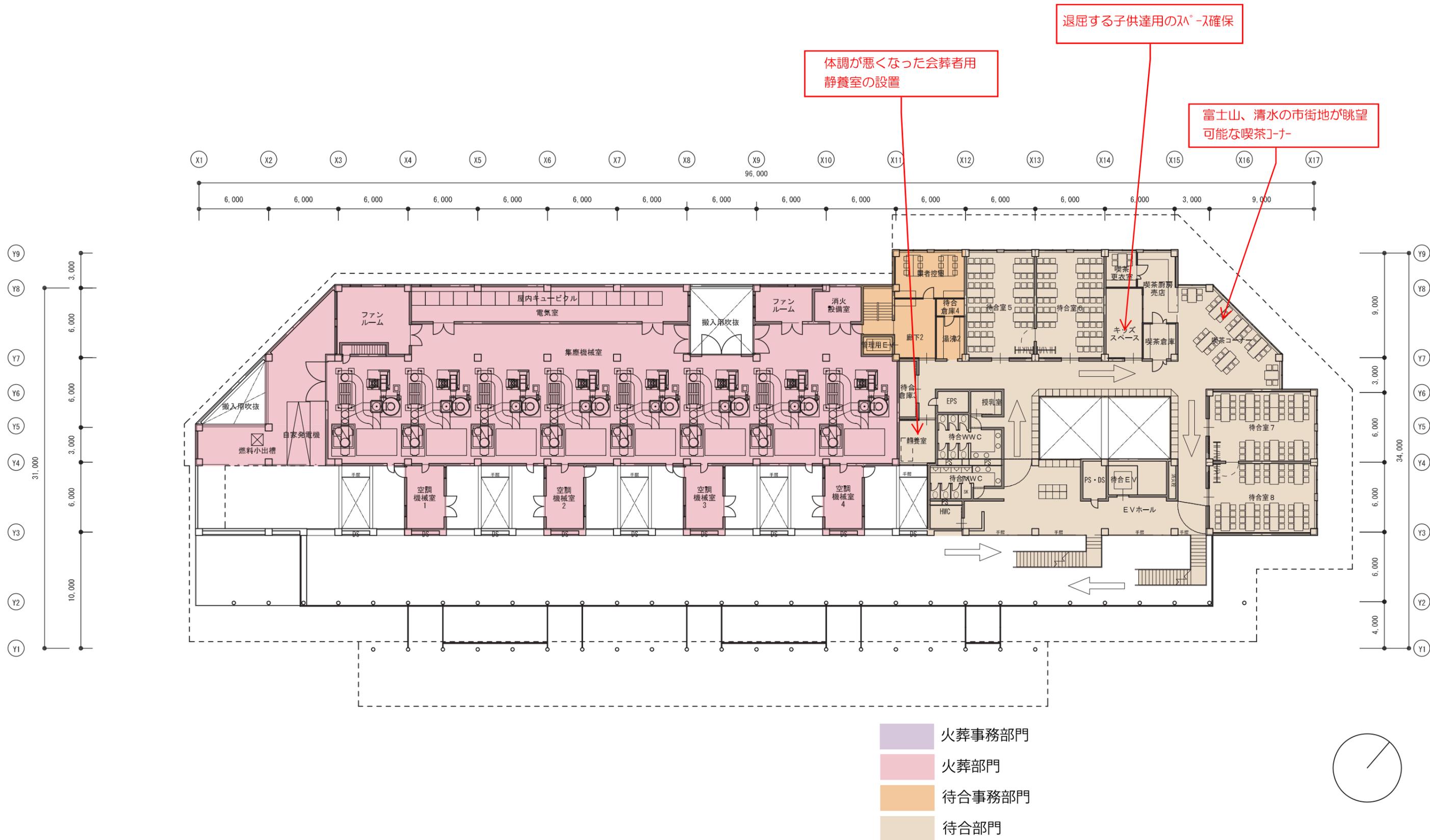


7. 建築総合設計図

7- (1) 配置図 1/1000



富士山の見える方位

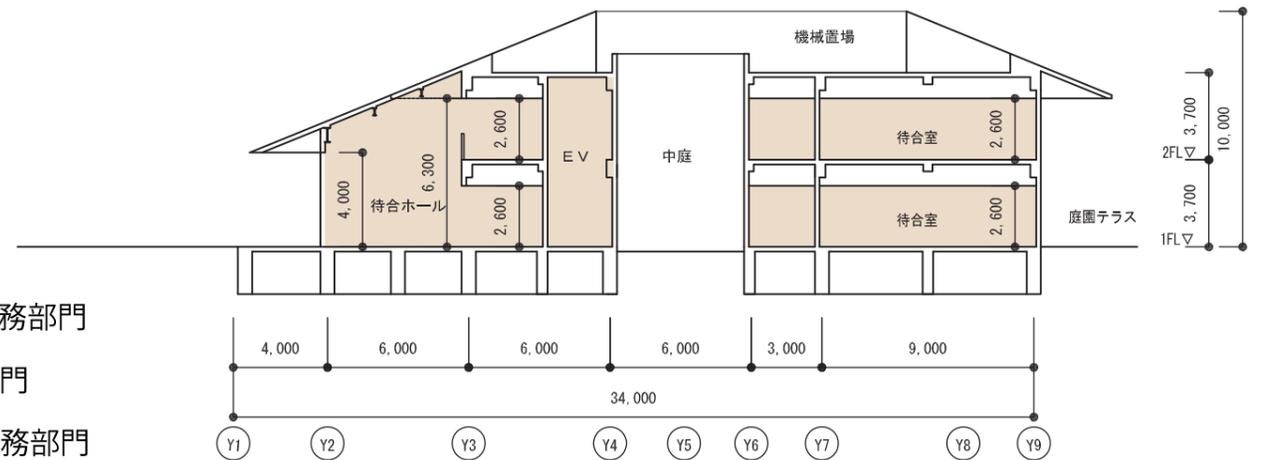
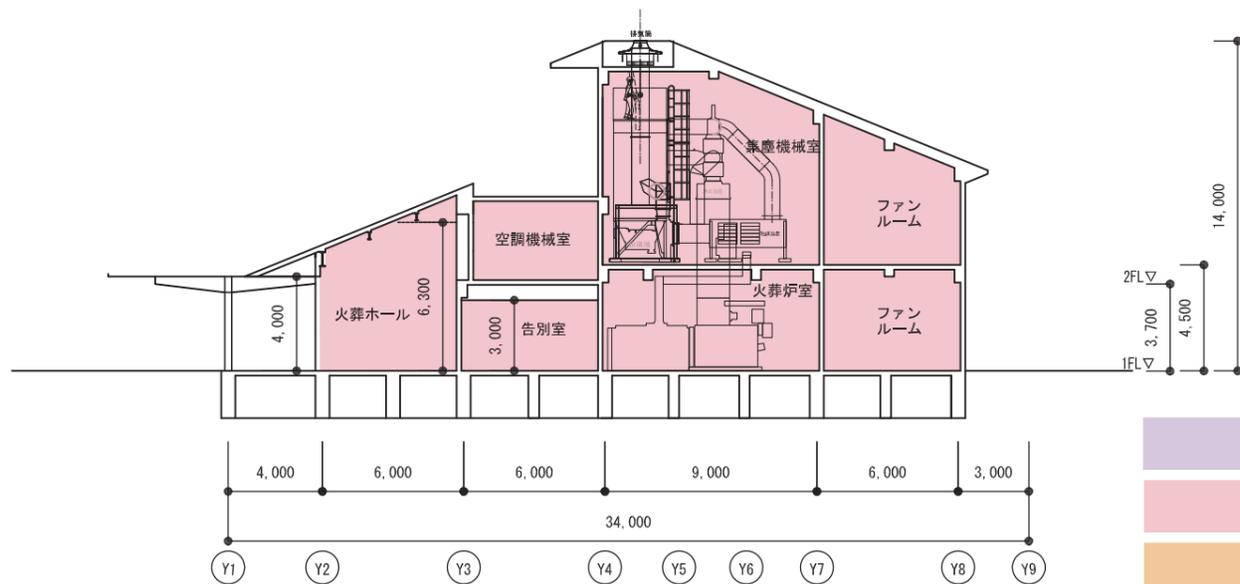
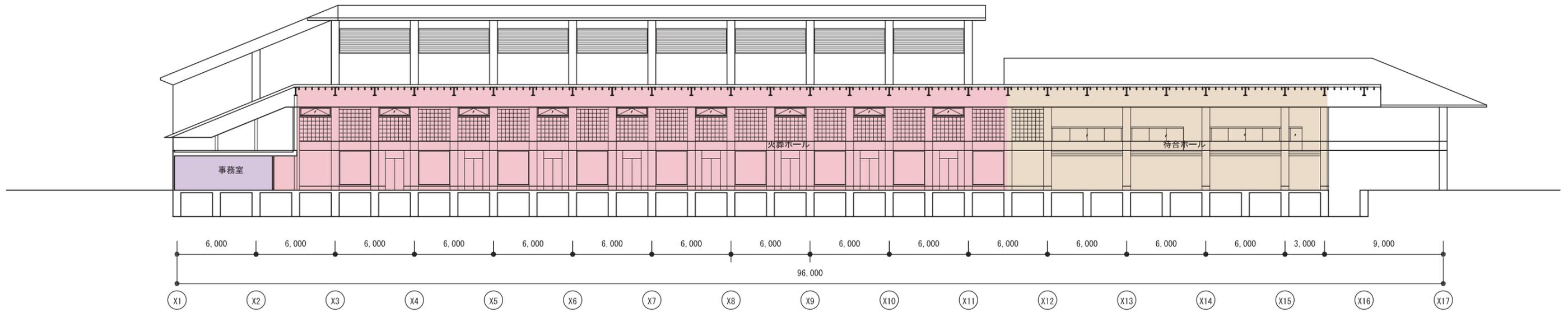


退屈する子供達用のキッズスペース確保

体調が悪くなった会葬者用静養室の設置

富士山、清水の市街地が眺望可能な喫茶コーナー

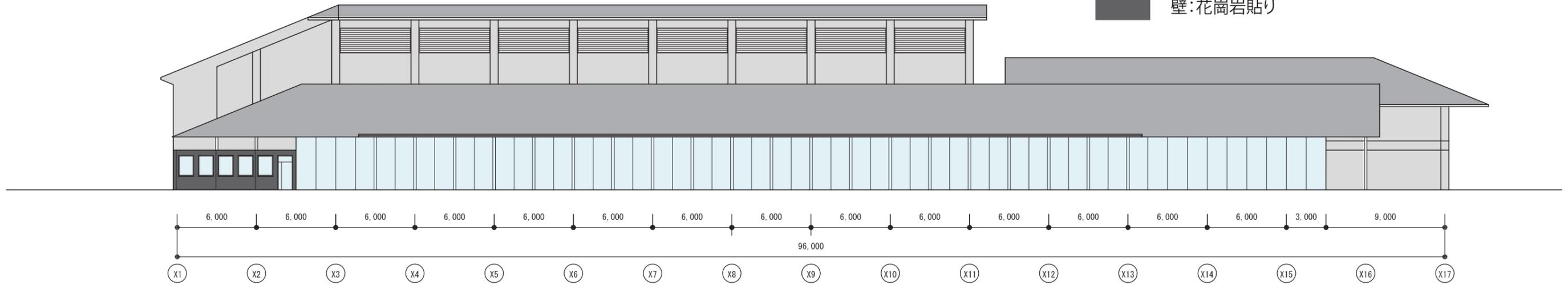
7- (4) 断面図 1/300



- 火葬事務部門
- 火葬部門
- 待合事務部門
- 待合部門

- 屋根:金属屋根 横葺き
- 壁:コンクリート化粧打放し
- 壁:花崗岩貼り

日本平の景観に溶け込むような色彩計画としていく

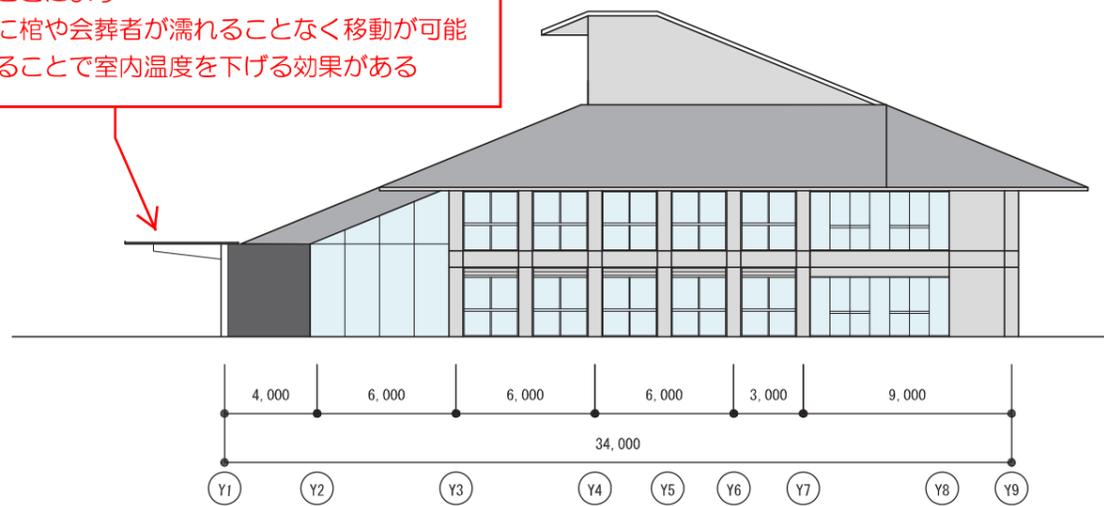


●南東立面図 1/300



●北西立面図 1/300

庇を長く確保することにより
車両から降りる際に棺や会葬者が濡れることなく移動が可能
夏の直射日光を遮ることで室内温度を下げる効果がある



●北東立面図 1/300

敷地北側に圧迫感を与えない
ように軒の高さを下げた



●南西立面図 1/300